



毎年、9月23日に町内で行われる「筆まつり」のイベントの1つに小・中学生を対象とした競書大会があります。今年もその運営を熊野高校が任され、8月頃から小・中

熊野高校生、大活躍！

ふるさと
筆都が育てる
ふるさと
筆都を育てる

熊野高等学校



学生が書く掛け軸を自分達で表装し、当日受付、指導、押印などに取り組みました。小学生低学年に話しかけることが少し難しいようでしたが、よく努力したと思います。また3年生は同時に、その大会会場において畳2畳ぐらいの布にそれぞれの課題を決



めて、大きな筆を持ち「7人大書」をしました。いよいよ書く瞬間、「筆まつり」を見学に来られた大勢の方々に見守られる中、とても緊張しながら大書を行いました。書き終えた3年生は、日頃の練習成果を十分発揮したのでとても満足そうでした。

そして、神社境内においては婦人会を中心に受け継いでこられた地域の伝統芸能である「筆踊り」に参加するため、何度も練習をした成果を出す時がきました。

当日、筆踊りの着物を着て、婦人会の方々と一緒に一生懸命踊りを披露しました。踊り終わって、来年はもっとうまく踊りたいと、抱負を語ってくれる生徒もいました。

このように地域の伝統行事である「筆まつり」を通して様々な方々と交流することで、学校では味わうことのできな

い貴重な体験をすることができ、本当に多くのことを学んだと思います。地域の皆さん、ありがとうございました。



くまの歌壇

熊野町短歌同好会

温かき亡母の内なる羊水に包まれしごとプールを歩く（黒瀬プールにて） 高松 勝子
 幾人の暮しを見しか今友が購いたる故郷の荒庭に佇つ 中本 寿美子
 石燈籠の背後の紅葉色映えて枝葉ゆらして風よぎりゆく 中井 千代子
 体力と気力を保たんウオーキング夏の名残りの入道雲仰ぐ 原森 喜久枝
 「では又ね」おしまいはコーヒーで別れゆく夕闇せまる懐かしき町 中井 桂子
 降るほどにカナカナ鳴きて明けそめぬすべて新に今日を始めん 田中 洋子
 大いなる没りつ陽見せんと山頂へ急ぐ友の背ひたに追いつく 大杉 徳子